肥前吉田焼 窯元会館

肥前吉田焼 窯元会館では、この地域で知られる磁器のスタイルを紹介しています。吉田焼は、16世紀後半、九州の肥前地方の大名である龍造寺隆信が近くの成谷川で煌く白い石を見つけたときに初めて登場したと言われています。この発見は、日本の磁器石鋳業の始まりを示しています。展示品に加えて、2つのシリーズの磁器作品を販売しているショップもあります。

水玉茶器

磁器は、高品質の陶磁器で高い評価を得ている近くの天草から調達されています。水玉茶器は、茶碗や急須に白い水玉模様が施された紺色の背景が特徴です。水玉模様が磁器に刻まれ、よりダイナミックな質感を生み出しています。

えくぼとほくろ

もう一つの著名なシリーズは、「えくぼとほくろ」シリーズです。通常、陶器や磁器には欠陥がないことが求められます。しかし、このシリーズは欠点の美しさを認め、水玉茶器シリーズをはじめ、くぼみや傷のある商品を割引価格で幅広く販売しています。

肥前吉田焼 窯元会館は、もともと窯元組合と呼ばれる地元住民が集う集会所でした。地域の組合員が集まって、自分たちが作った商品を販売していました。1995年、吉田焼を販売するために改装されました。

嬉野ハイキングコースの出発点

窯元会館は、人気の遊歩道である九州嬉野コースの出発点として便利です。建物の外観は赤いので見分けやすく、建物の入り口近くにある青い道標はコースの方向を示しています。